

### 第3部・送火のつどい

10~15分(カウンシル・ファイサー)

#### (1) 起立

- 司会者の合図で起立し、第3部の開始をつげる。

#### (2) 静かな歌

- 「星影さやかに」を全員で歌う。

○歌の間に火の使いはトーチに点火し、營火長の前に立つ。

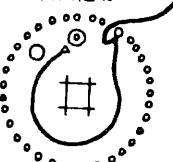
#### 星影さやかに

- 1 星影さやかに 静かにふけぬ  
つどいのよろこび 歌うはたのし
- 2 名残はつきねど まどいは果てぬ  
今日のひと日のきち 静かにおもう

#### (3) 営火長のことば

- まとめにふさわしい印象的な話をする。

#### 營火退場



円内一巡後1人に分火

#### (4) 営火退場

- 「今日の日はさようなら」を歌いながら火の使いは、参加者の顔を照らしつつ場内を一周して、一人に分火した後、退場する。

#### (5) 分火

- 残った1本のトーチから全員に分火する。

#### (6) 閉会のことば

- 司会者のあいさつと、終りのことば。

#### 退場

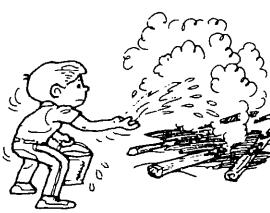
- 全員トーチをかざしながら退場する。
- 所定の場所でトーチを消火する。

### 6 その他の留意事項

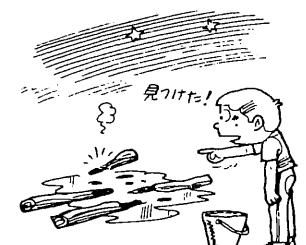
- 1 営火係を中心に消火し、バケツ、トーチ、まき等の後始末をする。なお、就寝前にもう一度消火の確認をする。
- 2 翌朝、燃え残った木や炭を取り除き、營火場の周囲を清掃する。
- 3 暗い中での活動なので事前に各係及び参加者の役割を十分に確認しておく。



燃えさしのマキをくずして、  
地上に広げる。



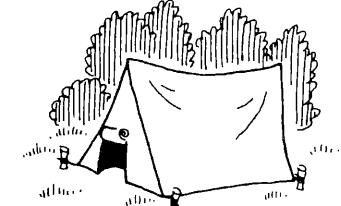
バケツを持ち、片手の竿で水を  
すくい、マキにしぶきをかける  
ようにして消していく。



暗くてマキをころがして見ると  
残り火がよくわかる。

(バケツから直接水をまいてしまうのは禁物)

# キャンプ・ファイサー



津市青少年野外活動センター

暗闇の中に燃えあがって輝く一つの火を囲んでのキャンプ・ファイサーは、友情の輪であり、キャンパーの心を魅了する神秘的な雰囲気は、深い印象と感銘を与え、生涯忘れることのできない思い出をつくるものです。

### 1 ねらい

- (1) 自然のふところの中で赤々と燃える營火を囲み、清純な心を養うとともに、新たな希望をいだかせる。
- (2) ゲームやスタンツを通して語りあい、創造性や協力性を養い、友情と親睦を深める。
- (3) 家庭生活では得られない火の神秘さを体験させ、火に感謝する心や、火を大切に取り扱う態度を養う。

### 2 所要時間 約90分

### 3 服装 長そでシャツ・長ズボン・軍手

### 4 事前の準備

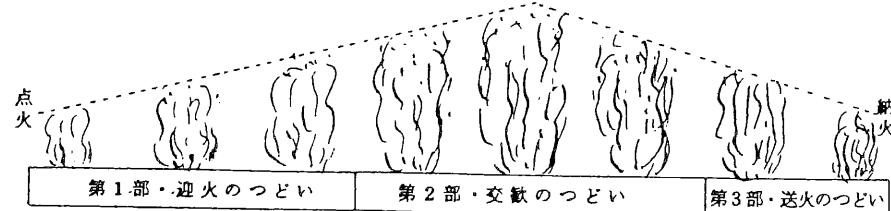
- (1) 役割と担当者の決定
  - ア 営火長(ファイサー・チーフ) 1名  
ファイサー全体の責任者。北極星を背に位置し、始めや終りに感銘深い言葉を述べる。
  - イ 司会者(エール・マスター) 1名  
プログラムの進行係。歌やゲームを実施しながら全体の気分を察知し、楽しい雰囲気をつくる。司会者の演出や指導力がキャンプ・ファイサーの成功のかぎをにぎっている。
  - ウ 火の使い(トーチ・キャリヤー) 1名  
トーチを運ぶ係。司会者との打ち合わせによる方法でトーチに点火して入場する。

## エ 誓詞係 4名

讃美または誓いのことばを述べるとともに、當火長の指示により火床に点火する。

## オ 営火係(ファイバー・キーパー) 2名

火を燃やす係。まき組から後始末まで受けもち、プログラムの進行にあわせて、下図のように火の勢いを調節する。

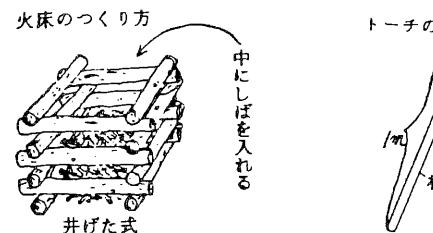


## (2) 用具等の準備

ア 火床 営火係がまき組みをする。

イ トーチ 棒、布、針金、灯油等を準備し、事前に作っておく。

ウ その他 補充用まき、消火用バケツ、スコップ、燃え残った木や炭を入れる缶。



## 5 活動の流れと指導上の留意事項(例)

### 集 合

- キャンプファイターについて説明する。
  - ・流れについての概要説明
  - ・役割分担
  - ・注意事項(態度、トーチの持ち方、点火のし方等)
- ゲームや歌唱指導でムードづくりをする。
  - 10~15分(カウンシル・ファイター)

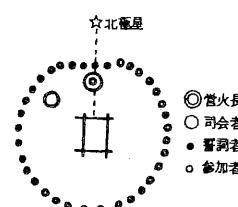
### 第1部・迎火のつどい

- 無言のまま司会者を先頭に入場してサークルをつくる。
- 當火長はあらかじめ當火場で待つ。
- 火の使いは出発点で待機する。

### (2) はじめのことば

- 司会者が開始のあいさつをする。

### 當火場の形態



### (3) 遠き山に日は落ちて

- 1 遠き山に 日は落ちて  
星は空を ちりばめぬ  
きょうの わざをなしあえて  
心からく やすらえ  
風はすずし このゆうべ  
いざや 楽し まどいせん

- 2 やみに燃えし かがり火は  
ほのね シズマリて  
ねむれ やすくいこえよと  
さうごとく 消えゆけば  
やすき みてに まもられて  
いざや 楽し ゆめをみん

### (4) 営火入場

- 火の使いは歌がハミングに入ったらトーチを持って入場する。円内を一周して、ハミングが終わるころ正面に立ち、當火長にトーチをわたす。

### (5) 営火長のことば

- 火に関する話、感動的な話等、団体生活にふさわしく、思い出に残る話をする。

### (6) 誓いのことば

- 誓詞者は當火長の前へ出て分火してもらい、トーチを右手に高くかかげ、讃美または誓いのことばを述べる。

### (7) 点 火

- 當火長の「点火」の合図によってトーチを高くかかげたあと点火する。

### (8) 炎 の 歌

- 火が燃え上ると同時に「もえろよもえろ」と歌う。火の勢いにあわせてだんだん早く歌う。

### (9) 着 席

- 司会者は第1部の終りをつけ、司会者の合図で着席する。

### 第2部・交歎のつどい

#### (1)各班の出し物(スタンツ)

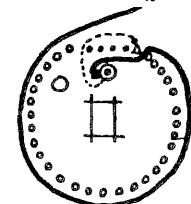
- 時間が長いと間延びするので、割当時間内におさめる。(1班5分ぐらい)
- 司会者は事前に各班の出し物を把握し、プログラムを立案しておく。
- グループ全員が参加し、キャンプ生活の一場面を取り入れた歌や寸劇などユニークで健全なものを創作する。
- 新聞紙、草花等身近な小道具を使って効果的な演出を工夫し、自己表現するといい。
- 言葉、動作をはっきり、大きくすること。
- 自分達で楽しむだけでなく、みんなにみてもらい、いっしょに楽しむ。

#### (2)全員ができるゲーム、ソング

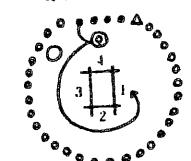
- 各班の出し物の前後に、雰囲気を考慮しながら司会者を中心に行う。
- 終りが近づいたら小さくなつた火にあわせて静かな歌を歌って、次の第3部につなぐ。

※ 交歎のつどいの終りに近づいたら當火係は、火勢を弱めていく。

### 營火入場



### 分火から点火



### もえろよもえろ

- 1 もえろよもえろよ 炎よもえろ  
火の粉をまきあげ 天までこがせ  
2 てらせよてらせよ 真昼のごとく  
炎よ うさまき やみ夜をてらせ  
3 もえろよてらせよ 明るくあつく  
光と熱との 源なる炎